



学校だより

伸びゆく子

令和8年1月7日
横浜市立中沢小学校
1月号

今年も 「今、私、全盛期」 をめざして

学校長 川又美貴子

冬の朝日のまぶしさと澄んだ空気の中、2026年が始まりました。冬らしい清々しい朝に思い立ち、この年始は久しぶりに箱根駅伝の応援に出かけました。自宅から30分とかからず行ける2区に気になる選手がいたこともあり、一月二日の朝、早めに家を出てコースの一路目に陣取り、選手が来るのを待ちました。徐々に応援のざわめきが聞こえてきて、いよいよと思って待ち構



えていると先頭の選手がやってきました。「頑張れー。」と声をかけたものの、あまりの速さに「がんばー」くらいを言ったところで走り去っていきます。その後も次から次へと選手たちがやってきますが、皆一様に「がんばー」の声を届けるのが精一杯。「頑張れー。」の「れー。」は背中に向かって叫んでいました。どうしたらあんなに速く走れるんだろう、すごいなあ、と感心しかありませんでした。

今年優勝した青山学院大学は5区山登りでの快走もあり、これまでの記録を4分近く縮める大会新記録でした。毎年毎年、これ以上ないと思われていた記録が更新される度に、人間はどうしてこれほどまでに進化し続けられるのだろうと考えさせられます。フィギュアスケートの4回転などもそうです。4回転を跳べるなんて人間業じゃない!と思ったところから、最新ではイリア・マリニン選手が、1つの演技の中で「全6種類・計7本の4回転ジャンプ」をすべて成功するまでになっています。人間はどこまで進化するのでしょうか。

私は普段バスケットボールのプロリーグBリーグを応援しています。一番好きな選手が旭中学校出身で元日本代表キャプテンでもある篠山竜青選手です。篠山選手はすでに37歳。プロとしてはキャリアを終える選手も多い年齢です。それでも、昨シーズンはキャリア初の個人タイトル獲得、今シーズンも3ポイントシュート成功率で全体の4位(1月4日時点)につける好調ぶりを見せています。「今、私、全盛期」のキャッチコピーを体現するパフォーマンスの裏には、いくつになっても小さな気づきを大切に、変化を恐れず進化し続けようと「日々努力」(篠山選手の著書のタイトルでもあります)する姿があります。ここが限界と自分で決めず、新たな自分を目指していくこと、いつでも「今が全盛期」と言えるように、積み重ねた経験の上にまた新たな自分を積み重ねていく、そんな思いで取り組んでいるそうです。

子どもたちを見ていると、新たな発見やできるようになることばかりで、その成長や吸収力がうらやましくなります。でも、大人だっていくつになっても成長できる。「今、私、全盛期」と言えるよう、私自身も進化を続け、子どもたちと共に成長していく2026年にしたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。